

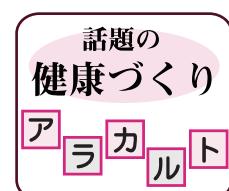
サポートが必要な要介  
サ  
康な状態と日常生活で  
に伴つて心身が老い衰え  
フレイルとは、加齢  
が低下します。  
フレイルは、体や心、脳の機能  
が進行して、日常生活の中  
量が低下すると、活動機会が減ります。  
新型コロナウイルス  
対策で先見えない自  
粛生活の中で、体を動かす機会が減っています。

けたり、積極的に階段を使わずに徒歩で車を使いましょう。外出時は車を使つて、日常生活の中でも体を動かす機会を見つけてください。



# 隙間運動で筋力アップ

今より10分体を動かすことを意識して



(33) フレイルの予防

普段の家事もりっぱな運動です。洗い物の時つま先立ちや洗濯物を干す時の屈伸、拭き掃除、お風呂洗い、草刈りなどを試してみましょう。

BCMの間にストレッチ、肩まわし、筋力トレーニングをしてみましょう。

自衛生活で外出を控えるあまり、長時間ボートとテレビをご覧になつていませんか。テレビの間に筋力を回復する運動をすることで筋力の衰えを遅らせることが必要です。

フレイルの状態になると最も大きな原因の一つが筋肉の衰えです。それが防ぐためには、良質のたんぱく質を含んだ食事をとり、定期的な運動をすることで筋力を回復する必要があります。

## 隙間時間の筋力トレーニングの例

ポイント: 呼吸を止めない(血圧が上昇し、心臓に負担がかかるので避ける)、5~10回の反復を目安とする(自分のペースで軽く続ける)

1) お腹の筋肉



あお向けの状態で膝を立て、床から肩が離れる程度まで上体を起こします。

2) 背中の筋肉



うつぶせに寝た状態から、肩をゆっくり床から持ち上げます。体が反り過ぎないように、注意しましょう。

3) 太ももの前面の筋肉



ももの筋肉を意識しながら、ゆっくりと上げ下ろします。左右共に行います。

: 鍛えている部位

健康増進課  
品川祐子

利用するなど、隙間時間もうまく利用して、まずは今より10分多く体を動かすことを意識してください。コロナ禍の私たちの生活は、巣ごもりによる活動量の低下やコミュニケーションの減少など、ともすればフレイルを進行させてしまう要素が多々あります。

新しい生活様式の中でも積極的に体を動かし、人との関わりを持ち、しっかりと栄養をとり、感染予防対策を行なながら、いきいきと健やかな毎日をおくり、フレイルを予防してください。



日々、多くの方々に人

間ドックを受診してい



(28) 感染症対策

# 安心して受診していただるために

## 来館の際には検温にご協力を

夏になると、毎年多くの方が熱中症で救急搬送されています。猛暑であった昨年8月は、全国で3万6千755人が搬送され、そのうち78人が亡くなりました。また、昨年は9月に入っても9千532人と、一昨年同月の3倍以上の方が搬送されました。

熱中症

は、高温、多湿、風通しの悪さにより起こりやすくなりますが、その対策としては、温度だけでなく、湿度や風通しにも注意する必要があります。

また、新型コロナウイルス対策のマスクは、夏に屋外で着用すると、熱が頭部にこもり、熱中症のリスクが高まります。マスク着用は他人への感染を防ぐためですので、周りに人がいない屋外で着用する必要はありません。しかし、屋内で他人と接触する場合は、他人に感染させないためにもぜひマスクを着用してください。



## 熱中症予防と夏バテ防止

### 屋外でのマスク利用に注意を



夏バテは、暑さのために、冷たいものや水分を取りすぎることで、胃腸の消化吸収力が弱って起ります。下痢や脱水を起こして疲れやだるさが続き、熱中症をおこしやすい危険な状態になります。

予防には、冷たい飲食物をとりすぎないようにして、塩分やビタミンB1を多く含む食品(豚肉、キノコ、大豆など)を適度に取ることが重要です。

夏バテを防ぐ漢方薬には、清暑益氣湯(せいしょえきとう)があります。この処方に、①消化機能を改善する作用②発汗を抑えて血中の水分を保つことで脱水を防ぐ作用③暑さによる熱を冷ます作用があります。

あります。エキス剤として医療機関での処方ができますので、特に胃腸の弱い方や高齢者は夏場の服用をおすすめします。

(健康科学センター 診療所長 武生英一郎)

これまで以上に感染症対策が重要視され、受診者の皆さまに安全かつ安心して受診していただくために、様々な対策を行っています。

当協会の対策をお伝えするとともに、受診される際に気を付けていただきたいことがあります。受付では、アクリル

板の設置などによる飛沫対策や、密集を避けるために受付時間單

位での人数調整をしています。また、施設・設備では、受診者が利

用するロッカー、テーブル、手すり、各種検査機器などの消毒を定期的に行なうとともに、ソーシャルディスタンスの取

り入れの配置(待合室・食堂や機械式の椅子の配置)を行なっています。

従事する職員は、マスク着用や手指の消毒

スクリーニング(体温測定)、体調管理を徹底し、家族に発熱者がいる場合にも速やかに連絡し、必要に応じて出勤を控えるなどの対策を徹底しています。

受診者の皆さまに引き続き、安心して

健康診断を受けていただけではなく、日々の体温チェック、体調管理を徹底し、家族に発熱者がいる場合にも速やかに連絡し、必要に応じて出勤を控えるなどの対策を徹底しています。

受診者の皆さまに引き続き、安心して

は、マスク着用をお願いするとともに、発熱37.5度以上がある場合には受診できないことを事前に通知したうえで、来館の際には入口にて、問診と非接触型の体温計での検温にご協力いただいている

ことになります。

受診者の皆さまに引き続き、安心して

健康診断を受けていただけではなく、日々の体温チェック、体調管理を徹底し、家族に発熱者がいる場合にも速やかに連絡し、必要に応じて出勤を控えるなどの対策を徹底しています。

受診者の皆さまに引き続き、安心して